

# 木知原の今昔!

25号: 5・10・27

元禄2年の古文書に記録されている  
宮地メ四ヶ所の中で唯一現存する山之神。

## 船路山神

**船路山神**は長谷入口にある権現山裾野の大岩に祀られている山之神である。

船路とは聞きなれない名であるが、由来は前を流れる谷川を昔は筏や小舟で木材や炭・柴(薪)を運び出していたことから「船路川・船路谷」と呼んでいたからである。

江戸期の絵図には「船路・谷川」の名が見られる。また竹浦には今も「船路」の地名が残っている。

「船路山神」周辺を昔から「山之神」と呼んでいるので古くから祀られていたのでしょう。

現在は名知和男氏が祠を建て祀っておられる。  
・権現山頂にも祠が祀られているが、権現とは「山全体が神」との信仰からの呼称である。

### 山之神雑記

**山之神信仰**は、諸説あるが「女神で山の守護神」が一般説である。

山の神は女性神として信仰されてきたことから、お供え物には御神木で模った男根を供える慣習が今日まで続いているのでしょう。

また“恐ろしい女神”であるから“怒らせてはならない・やきもちを妬かせてはいけない”との信仰も根強いことからのお供え物?であるのかな!

口やかましい妻を「ヤマノカミ」とも言っていたがこの語源はこの辺りにあったようですヨ!

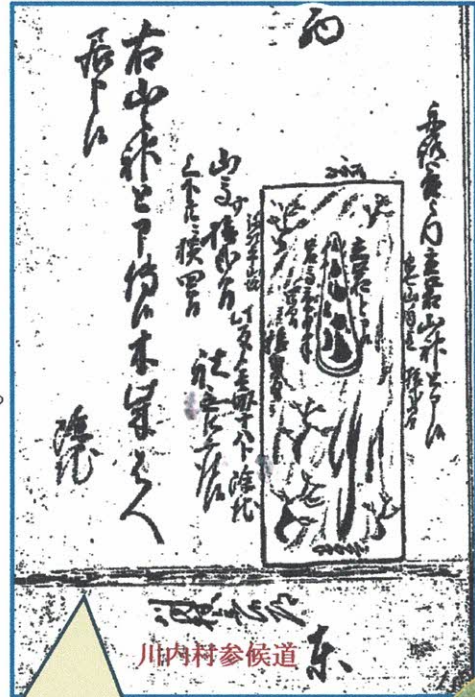
**山の講**(やまのこ)と呼ぶ山之神の祭りがある。

山之神は「春に下山し秋に帰る」との信仰から、農業・林業・狩猟を生業としていた農村では「春はお迎えと祈願、秋は感謝とお送り」と年に2回山の祭りが行われてきた。

また、山の祭りは男性が取り仕切る、山之神が祀られている山は**女人禁制**といった風習が今も残っている。家の「ヤマノカミ」も「恵みに感謝の神様」ですからマーマーマー

林業が盛んであった木知原にも山の講はあったと思うが聞いたことはない。

ご存じの方は? 宮地メ四ヶ所の山之神シリーズはこれにて一件落着! 如何でしたか?



舟路谷之内立岩山神と申候  
右山之神と申し傳候木柴はへ居申候  
除地

・旧長谷街道は門洞井水取水口  
辺りで谷川を東側へ渡り川ぞい  
を上り現砂防ダム辺りで西側に  
再度渡っていた。



「半七山之内に有・立岩と  
申候・弥次兵衛山境」

